

題材名「校長先生講話」

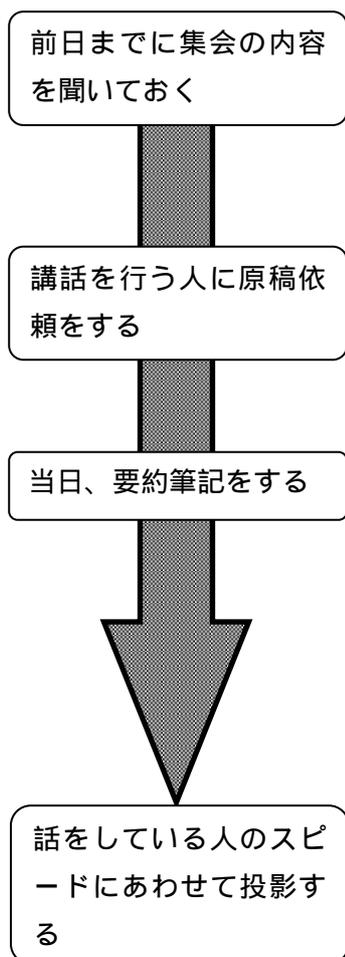
目 標

- ・ 難聴学級の生徒に校長先生やいろいろな先生方からの講話をできるだけ正確に、そして即時的に伝えられるようにする。
- ・ 難聴学級の生徒だけでなく、普通学級の生徒にもわかりやすく伝えられるようにする。

コンピュータを活用する利点

これまで全校集会や学年集会で先生方の講話や表彰伝達などのとき、難聴学級に在籍する生徒たちは一カ所に集まり、職員による手話通訳や、話す人が口の形を生徒の方に大きく見せるようにしてきた。そこで、コンピュータやその周辺機器を利用することで生徒たちがクラスの列からを移動することなく整列することができ、普通学級の生徒も話の中でわかりにくい言葉を前方のスクリーンで確認することができるようになった。生徒たちはスクリーンを見るために、座ってる状態でも姿勢良く頭を上げて話を聞き、講話を文字の情報として取り入れるので、理解がより進むと思われる。

授業の流れ



ICT 活用場面

全校集会の前日までに集会の内容を担当者から聞いて、できるかぎり講話をする人に原稿を依頼しておく。その原稿は、難聴学級担任がコンピュータ入力をする。



そのデータはソフトを利用してプロジェクタで体育館前方のスクリーンに投影する。データ出力はそれほど難しくないので担任以外でも操作は可能である。

成果と課題



生徒たちは話の中でわかりにくい言葉を前方のスクリーンで確認することができるようになった。しかし、講話のデータがあるときは誰でも操作可能であるが、要約筆記となるとタイピングをいかに間違えずにできるかが重要となり、誰でも行うという

わけにはいかないのが、研修が必要だと思われる。

市内では本校にだけ難聴学級が設置されているので、今後、難聴学級の在校生が増え、学級が増える可能性もあり、このような要約筆記ソフトやプロジェクタやスクリーンなどの整備も必要だと思われる。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	ノートパソコン・プロジェクタ・固定スクリーン
使用ソフト名	I P talk (フリーソフト)
使用教室	体育館